

# 2015年度12月期 業績のご報告

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社

2016年2月12日

# I . EAJ事業内容のご説明

## EAJは顧客の皆さんに「安心」を提供します。

### ◇ EAJは「安心」を提供する企業です。

国際化を余儀なくされる日本経済にとって海外市場、とりわけアジア市場との関わりは避けて通れません。しかし、海外にいる時でも、日本と同じような医療を受けられることが保証されていたら、どれだけ安心でしょうか？

EAJは、クロスボーダー/クロスカルチャーで活躍するお客様に対して、言語や社会制度、カルチャーギャップのある海外でも、安心して医療などの必要なサービスを受けることができるように、現地のインフラとお客様の間に入って、コーディネートする仕事を行っています。

EAJは世界のあらゆる地域で「安心」をサポートできるよう業容を拡大し、お客様が安心して活動できる世界を広げます。

### ◇ 将来は、民間の領事館のようになりたいと思っています。

現在、海外にある日本領事館は、医療関係、事故などの対応窓口として海外で生活する日本人を保護する業務をしており、海外で暮らす日本人にとって大変重要な存在です。

けれど海外で欲しいサービスは様々です。EAJは民間であることを生かして高いレベルのサービスを提供し、海外で生活してビジネスを行う日本人が頼れる存在になりたいのです。

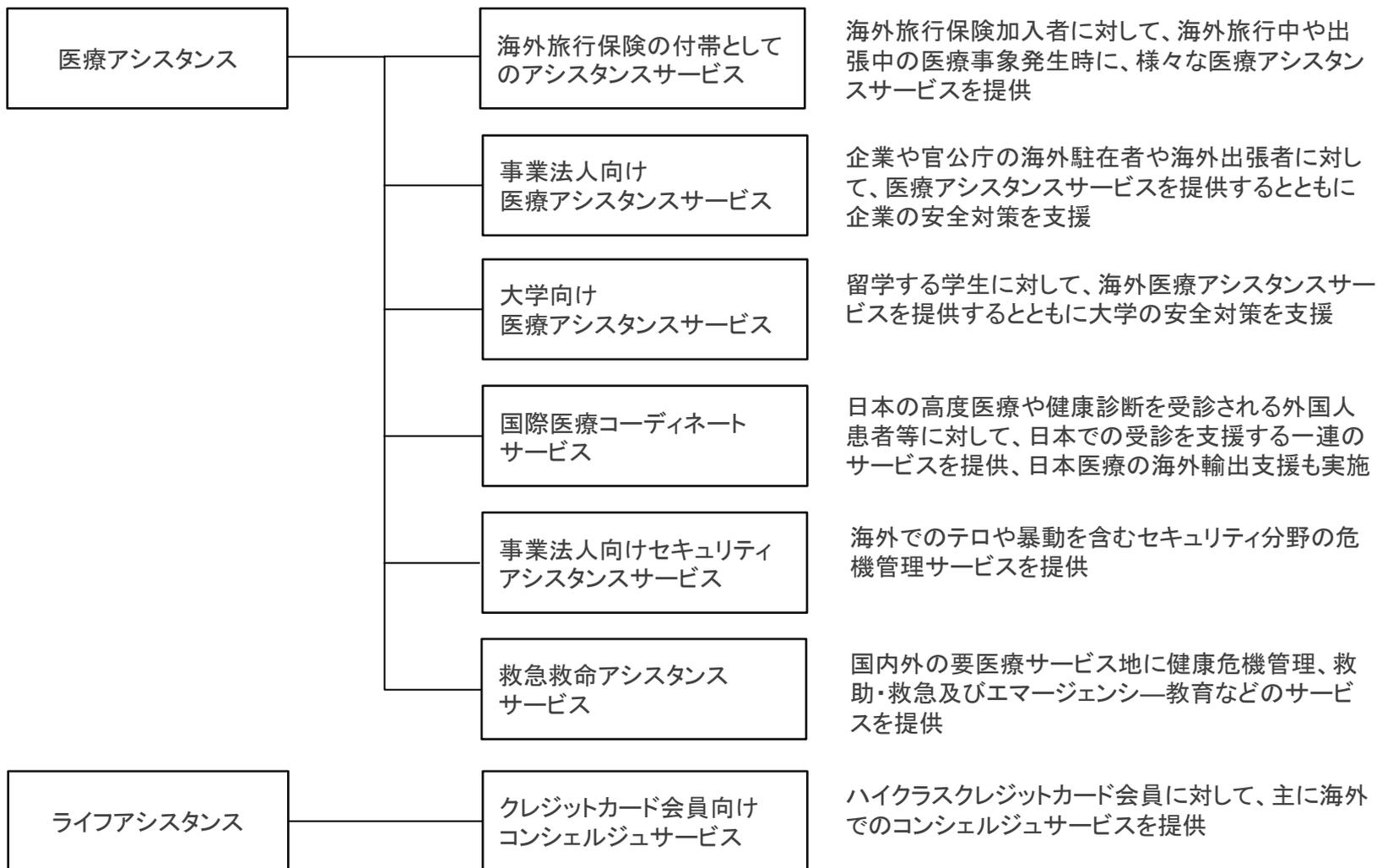
例えるならば、警察があっても民間警備会社があるように、日本郵便があっても宅配会社があるように、大使館・領事館があってもEAJがあるというような存在になりたいと思います。

そして、世界中どこでも安心と安全を提供できる企業を目指します。

# 当社事業

## 事業

## 展開する主なサービス概要



## EAJのネットワーク網

- 7ヶ国に海外センターを配置（● 米国、中国、タイ、シンガポール、英国、フランス、バングラデシュ）
- 拠点数は全世界で12カ所、グループ要員数は310名
- 世界各国で提携関係にある11,586件の医療機関と4,392件の海外プロバイダーを活用しサービスを提供



※プロバイダーとは当社がアシスタンス業務において協力を依頼する機関を指します。

## EAJ ビジネスの強み

### ビジネスの強み

- **医療搬送に強みを持ち、医療アシスタンスの全領域をカバー**  
海外で病気や怪我をした患者様からの電話の受付、医療機関紹介から搬送までワンストップで実施する会社は日本企業では当社だけである。
- **インバウンド(外国人患者受入)事業のリーディングカンパニー**  
外国人患者受入で業界でも主導的地位を保持し(医療ビザ申請第1号企業)、医療渡航支援企業に国内で初めて認証される。
- **セキュリティ事業を強化、医療とセットで海外リスクマネジメントを実施**  
全世界でセキュリティアシスタンスを提供。テロ活動などを踏まえた予防措置、緊急時支援、有事の際の緊急脱出など専門的な支援を実施。医療とセキュリティの総合リスク管理サービスを提供。

### 強みの源泉

- **高い新規参入障壁**  
新規参入時に医療機関ネットワーク網の構築、バイリンガルのコーディネーター等優秀な人材の獲得・教育が必要であり、多額の初期投資がかかる。また、セキュリティ事業構築には独自の人的コネクションが必要である。
- **サービス品質の高さ**  
複数の言語を話し、保険と医療に詳しい日本人スタッフを多く擁し、日本人ならではのきめ細かいサービスを提供。医療搬送も日本人顧問医師が判断し、日本人医療チームによる搬送という差別化戦略(ジャパンスターダート)を採る。
- **独自性**  
日本資本で唯一アシスタンス事業を専業とし、世界規模でサービスを提供。また、上場している(東証JASDAQ)アシスタンス会社は世界でも稀である。

## Ⅱ. 2015年度連結会計年度の決算報告

## 決算業績サマリー

- 売上高 2,530百万円(前年同期: 2,199百万円)  
営業利益 135百万円(前年同期: △24百万円)  
経常利益 131百万円(前年同期: △26百万円)  
当期純利益 89百万円(前年同期: △35百万円)
- 売上高は2,530百万円となり、前年同期比で15.0%の増収であった。
  - 医療アシスタンス事業の売上は前年同期比で18.8%増。
    - ✓ 2015年の海外出国者数については全ての月において対前年同月比で減少したものの、当社のアシスタンスサービスに関する売上高(ケース売上)は前年を上回った。
    - ✓ 法人・大学・セキュリティ売上が好調であった。
    - ✓ 外国人患者受入事業で今期は前年同月比で売上が増加した。
  - ライフアシスタンス事業の売上は前年同期比で0.6%減。
    - ✓ 売上減はセグメントの変更によるもので事業は順調に推移している。
- 円安による海外センター費用の増加と人材・ITへの投資費用が増加し、費用総額は増加した。一方、「EAJリエンジニアリング」への取組により、人件費を中心に費用増を抑制できたため、営業利益は135百万円となった。
- 経常利益は131百万円、当期純利益は89百万円となり前年度から大幅改善した。

## 決算および直近のトピックス

- **前年実績・計画を上回る増収、増益を達成した。**

円安の継続、海外テロの影響等による海外出国者数の減少という厳しい環境ではあったが、シェアの拡大に支えられて、医療アシスタンス売上は堅調に推移した。

国内初の医療渡航支援企業に認証されたことで認知度と信頼が増したこと、在日外客数の増加を追い風に外国人患者受入事業も好調であった。

効率的な業務運営を実施する「EAJリエンジニアリング」により、コストコントロールを実施し、利益を計上できた。

上記により、当期の業績は売上高、利益ともに前年実績・計画を上回った。

- **期末配当を実施する。**

1株当たり5円の配当を実施する。株式分割を勘案すると昨年実績と実質同等の配当金額である。

- **医療の国際展開を積極的に推進。**

- 10月にインドネシア共和国社会省の防災視察団が当社を訪問
- 12月にアブダビ国営石油会社と共催で日本医療紹介セミナーをアブダビ首長国にて開催
- 12月にアブダビ国営石油会社(ADNOC)向け放射線医学ワークショップをアラブ首長国連邦(UAE)アブダビ首長国にて開催

当社の医療機関とのネットワーク、社内の救急救命士を活用して、海外へ日本の医療と安全管理を紹介する役割を担う。

## 当期連結実績について

2015年連結実績は売上、利益ともに前期実績、業績予想(2015年7/22公表)を上回った。  
(単位:百万円)

	前期実績	通期予想 (7/22日公表)	当期実績 (及び2016年1/29 公表通期予想)	当期実績 -通期予想 (7/22日公表)	増減率 (通期実績/ 通期予想[7/22公表])
売上	2,199	2,500	2,530	30	101%
営業利益	△24	90	135	45	150%
経常利益	△26	80	131	51	164%
当期純利益	△35	65	89	24	137%

- 円安やテロの影響で日本からの海外渡航者数が減少するなどの悪環境の中で、業界内でのシェアの上昇や医療搬送の大型案件が続いた。
- 外国人患者を日本に招聘し、日本の高度医療を提供するインバウンドサービスが業績に寄与した。
- EAJリエンジニアリングへの取り組みがコストの削減に寄与したことや、人件費が当初計画を下回った。

## セグメント別業績ハイライト

- 医療アシスタンス事業は、海外出国者数が減少したものの、アシスタンスサービスに関する売上（ケース売上）は前年同月比で増加した。
- 医療アシスタンス事業における外国人患者受入に係る売上（インバウンド売上）は堅調に推移し、通期では前年比136.6%であった。
- ライフアシスタンス事業は売上は概ね堅調に推移した。

（単位：百万円）

	前年同期		当期実績	
	売上高	利益	売上高	利益
医療アシスタンス事業	1,777	191	2,111	379
ライフアシスタンス事業	422	119	419	103
調整額※	-	△335	-	△348
セグメント合計	2,199	△24	2,530	135

※ 調整額とは、各報告セグメントに配分していない全社費用のこと。

※ セグメント利益の合計額は連結損益計算書の営業利益と一致している。

## 2015年決算連結貸借対照表

連結BSは当期純利益増加による営業CFの増加があり、また負債の圧縮を実施した。

(単位:百万円)

	2014末 (構成比)	当期実績 (構成比)
資産合計	1,995 (100%)	2,048 (100%)
流動資産	1,690 (85%)	1,753 (86%)
固定資産	305 (15%)	295 (14%)
負債合計	1,401 (70%)	1,379 (67%)
流動負債	1,211 (61%)	1,255 (61%)
固定負債	189 (9%)	124 (6%)
参考:借入金残高	941 (47%)	864 (42%)
純資産合計	594 (30%)	668 (33%)

### 資産

- 営業キャッシュフローの増加による現金及び預金の増加

### 負債

- 長期借入金の返済
- 未払金の減少

### 純資産

- 当期純利益が増加
- 新興国通貨の減価による為替換算調整勘定の減少

## Ⅲ. 各種施策の取組み状況のご説明

## 2015年全社重点事業目標の遂行実績

### 全社重点事業目標

### 結果

EAJリエンジニアリング  
— 構造改革で利益を上げる —

全社的なリエンジニアリングの取組みにより、全業務について少数精鋭での処理体制作りに取り組み通期実績の黒字化に貢献した。

全業務にわたる業務品質の向上と組織間の協力体制の強化

高機能電話システム導入により全世界センターを1つのヴァーチャルな拠点と扱うことができ、サービス品質向上、効率化が進みだした。

情報基盤の早期完成と習熟度のアップ

「基幹業務システムの改善・再構築」を完了し、システムの高度機能を生かした効率的な運用を実現する準備が整った。

法人契約及び大学契約の価値増大  
顧客群拡大への取り組み

医療とセキュリティサービス提供によるトータルリスク管理を積極的に営業し、法人及び大学向けアシスタンスの売上拡大を達成した。

国際医療インバウンド患者数の大幅拡大

医療渡航支援企業に認証され、認知度が向上して患者の受入数が増加した。また、訪日外国人へのアシスタンスも増加した。

## 配当の実施

- 2014年に引き続き、今期末時点の株主様に配当を実施する。
- EAJは株主様に継続的かつ安定的な配当を実施することを基本方針としている。

### 配当の状況(1株当たり配当額)

2015年12月期	
中間配当	0円
期末配当	5円
合計	5円

2015年12月期の期末配当は5円とさせていただく予定です。なお、期末配当は分割後の株式が対象となるため、1株当たり配当金は減少していますが、前年実績(分割前株式1株当たり10円)と実質同額の配当となります。  
※当社は2014年9月1日を効力発生日として、普通株式1株につき、2株の割合をもって分割いたしました。

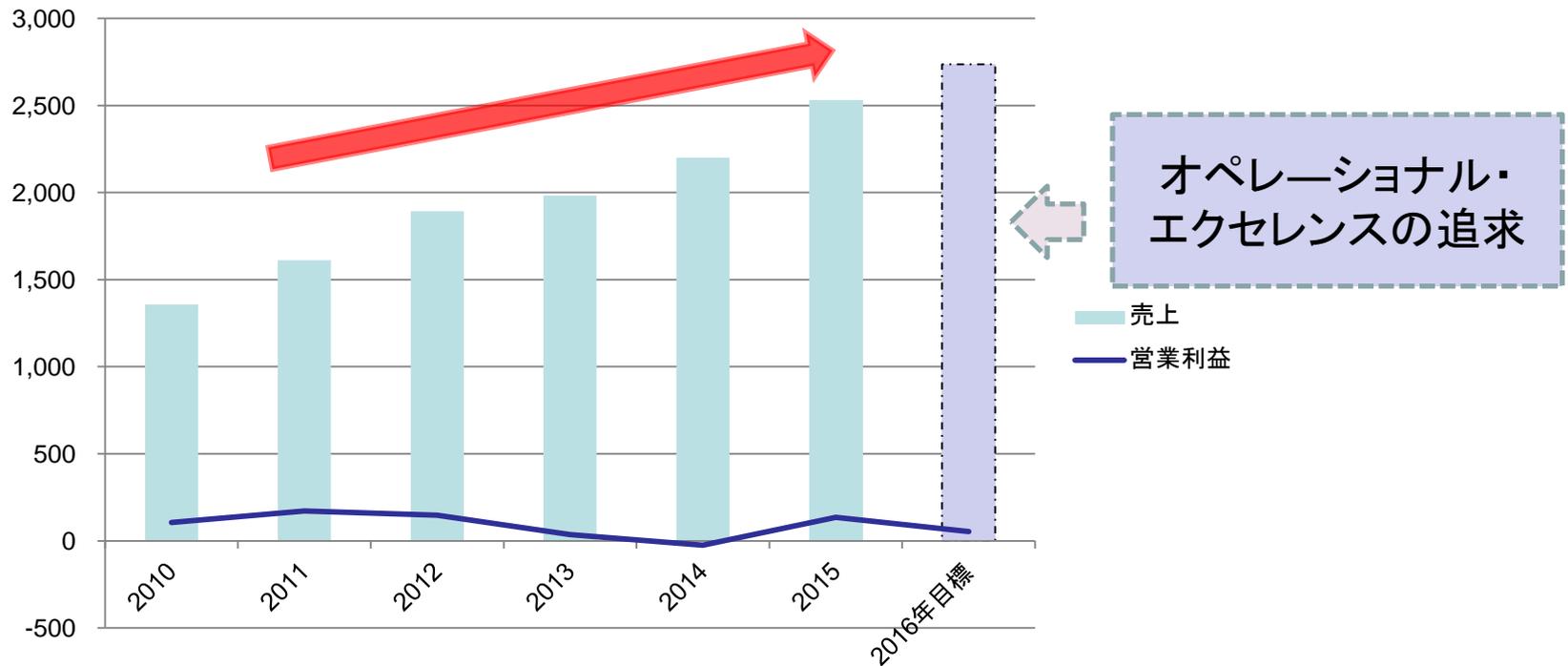
## IV. 2016年の当社の取り組み

## 2016年目標は「オペレーショナル・エクセレンス」の追求

- 売上高は毎年増加している(5年間の平均で毎年約13%増収)
- 一方、円安に伴う海外出国者数の減少、競争環境激化により一層のサービス品質の向上と競争力の強化が問われる。

⇒ オペレーショナル・エクセレンスを実現し競争優位に立つ

5年間の売上高、営業利益の推移 (単位:百万円)



## EAJのサービスの特徴

- 電話受付から高度な医療関連コーディネーターまで、アシスタンスの「ワンストップサービス(川上から川下まで一社でサービス提供)」を提供するのは日本企業では当社だけです。
- 医療には総合的な判断が求められます。EAJはお客様の病状把握を電話受付の段階から帰国搬送等の最後までトレースし、お客様の安全・安心を最後まで見届けます。
- すなわちオペレーションにこそEAJの優位性があり、今後も改善・進化を図って参ります。



### 当社 (EAJ)

国内A社(※)

外資系B社(※)

※A社・B社は特定の企業を指すのではなく、あくまでもイメージです。

## 2016年の外部環境

業績に与える影響	2016年の外部環境		
	円安	IS等のテロの増加 感染症の流行	企業間競争の激化
ポジティブ要因	訪日外客数の増大を受けて外国人患者受入増	企業・法人の危機管理意識の高まりによりアシスタンス事業に対する需要増大	比較により当社のサービス優位性をアピールでき、ビジネス拡大のチャンス
ネガティブ要因	海外出国者数が減少 海外センター費用増大	海外出国者数が減少	新規企業の参入 ライバル企業との競争激化

上記のような厳しい環境を勝ち抜くためには



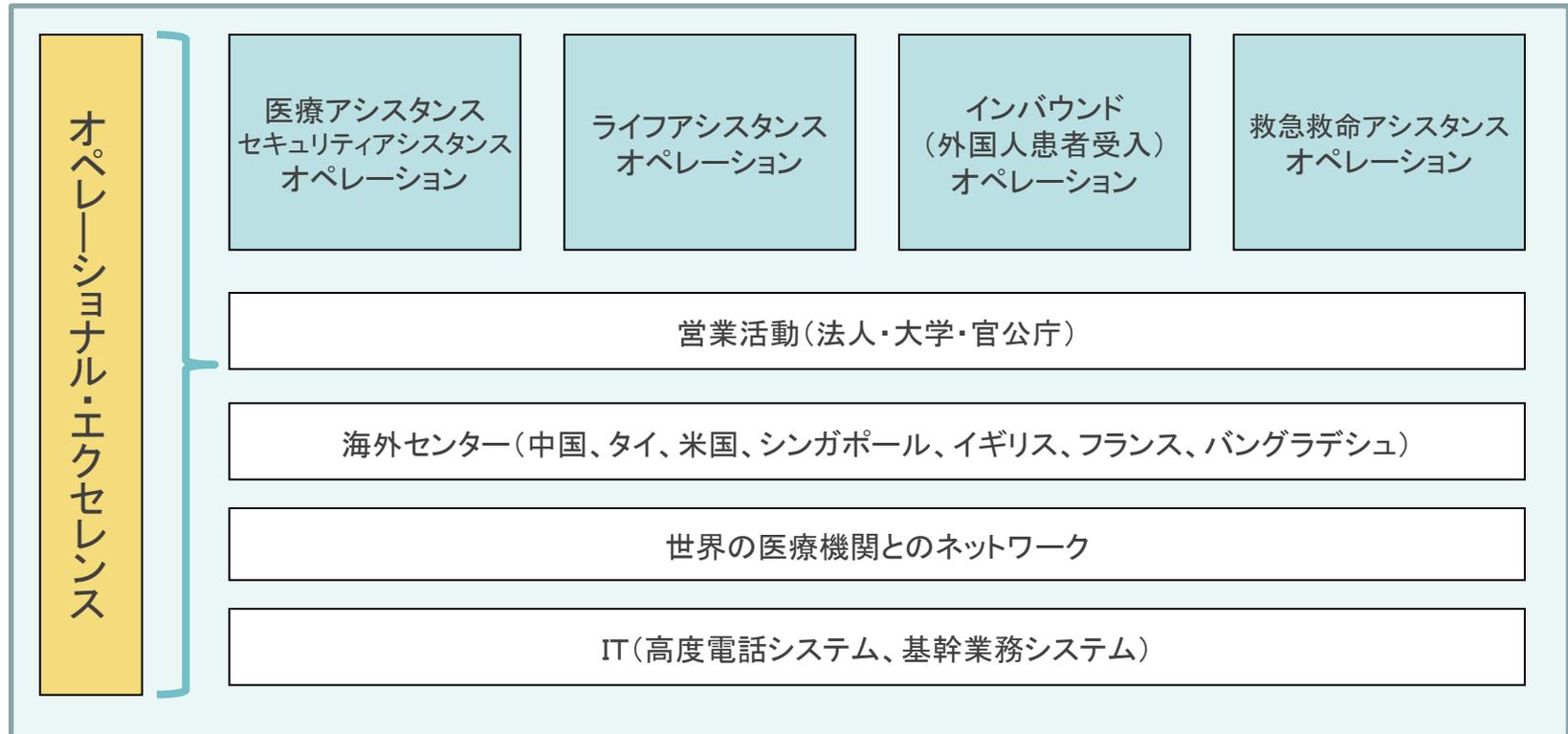
EAJの競争力の源泉はサービス(オペレーション力)にある。強い現場を持ち、絶えずオペレーションを改善できる組織力を身につけ、ライバル各社に対する競争優位を保つ



オペレーショナル・エクセレンスの実現(現場力が卓越し、競争優位を維持)

# オペレーショナル・エクセレンスの実現

EAJは常によりよいオペレーションを追求しようとする考え方を全社に浸透させ、継続的なオペレーションの進化を可能にするための仕組みを整え、顧客満足の最大化を目指します。



顧客満足の最大化(ジャパンスターダートの、きめ細かい、思いやりの心を持った対応)

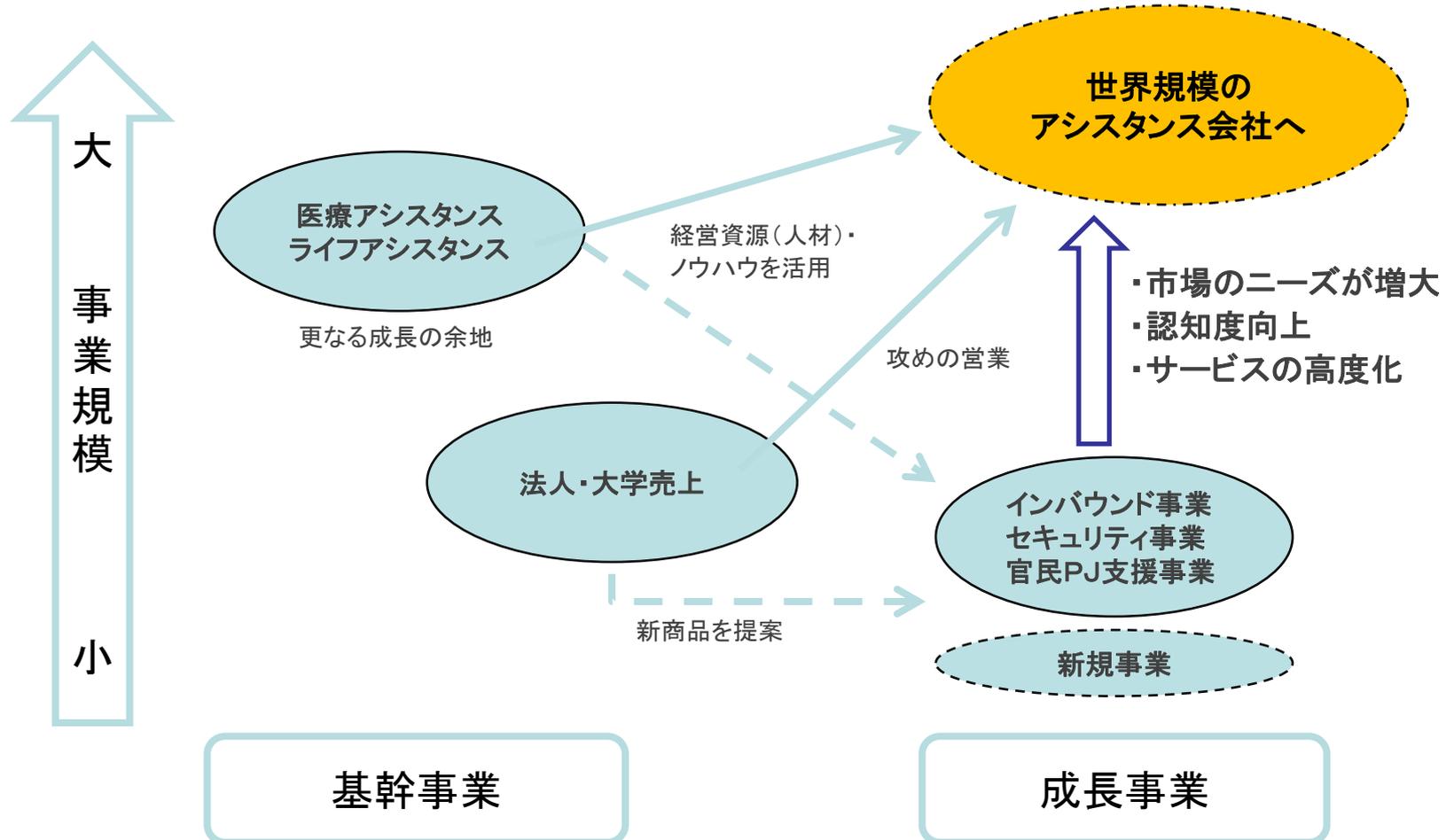
## V. 2016年業績予想について

## 2016年の業績予想

- 売上高 2,735百万円(2015年:2,530百万円)
- 営業利益 90百万円(2015年: 135百万円)
- 経常利益 80百万円(2015年: 131百万円)
  
- 不透明な外部環境から現時点では慎重な見通しを立てているが、ビジネスの拡大基調に変化はない。
  - 売上は8.1%増加する見込み
    - ✓ 法人・大学売上は積極的な営業の実施で売上増加を図る
    - ✓ インバウンド関連売上は引き続き好調
    - ✓ セキュリティ関連のニーズは増大すると想定
  - 利益予想が慎重な理由
    - ✓ 円安の継続による海外コストの増加
    - ✓ 円安及びIS等のテロ懸念から海外への出国者数の減少
    - ✓ IT関連や海外拠点の拡充を含む先行投資の負担増
  
- 最高品質のサービスを提供し、常にお客様のニーズに応えられるよう、「オペレーショナル・エクセレンス」(業務品質の追求)を実施し、絶対的な競争優位を確立する。
  
- 企業効率を高めるため、前年に引き続き、「EAJリエンジニアリング」を推進する。

# EAJの事業展開イメージ

基幹事業である医療アシスタンス事業及びライフアシスタンス事業のノウハウを活用して成長事業(インバウンド・セキュリティ・官民PJ支援事業等)を伸ばす



## VI. インバウンドサービスについて

## インバウンドビジネスの外部環境

**2015年9月に「医療渡航支援企業」に国内で初めて認証された。**

※「医療渡航支援企業認証制度」は、日本政府の成長戦略の一環として、来日して治療を受けようとする外国人が安心して医療サービスに関する相談や受診の支援が受けられるよう、一定の基準を満たした質の高い支援サービスを提供できる企業に日本政府が”お墨付き”を与える制度である。



**当社に対する認知度と信頼が増す。**

- 当社と当社のインバウンド業務に対する信頼が増し、海外からの患者受入が一段と増加することが予想される。
- 高度医療受診に対する認知度は上昇しており、外国人患者受入数は増加する。

**訪日外客数の増加が追い風に**

- 2015年の訪日外客数は19,737千人で前年比147.1%であった。
- 確率的に病気や怪我は発生し、訪日外国人の日本の医療に対するニーズは増す。



**緊急対応的インバウンドの需要増加。**

- 日本滞在中に病気や怪我をした外国人に対する緊急対応的なインバウンドサービスが必要となる。
- 医療機関側でも外国人患者の対応をアシスタンス会社に依頼する必要性が生じる。

## EAJはあらゆるインバウンド案件に対応

インバウンドには日本の高度医療受診を目的に訪日するケースと訪日外国人が日本で病気や怪我をした場合の緊急医療対応ケースとの2種類がある。

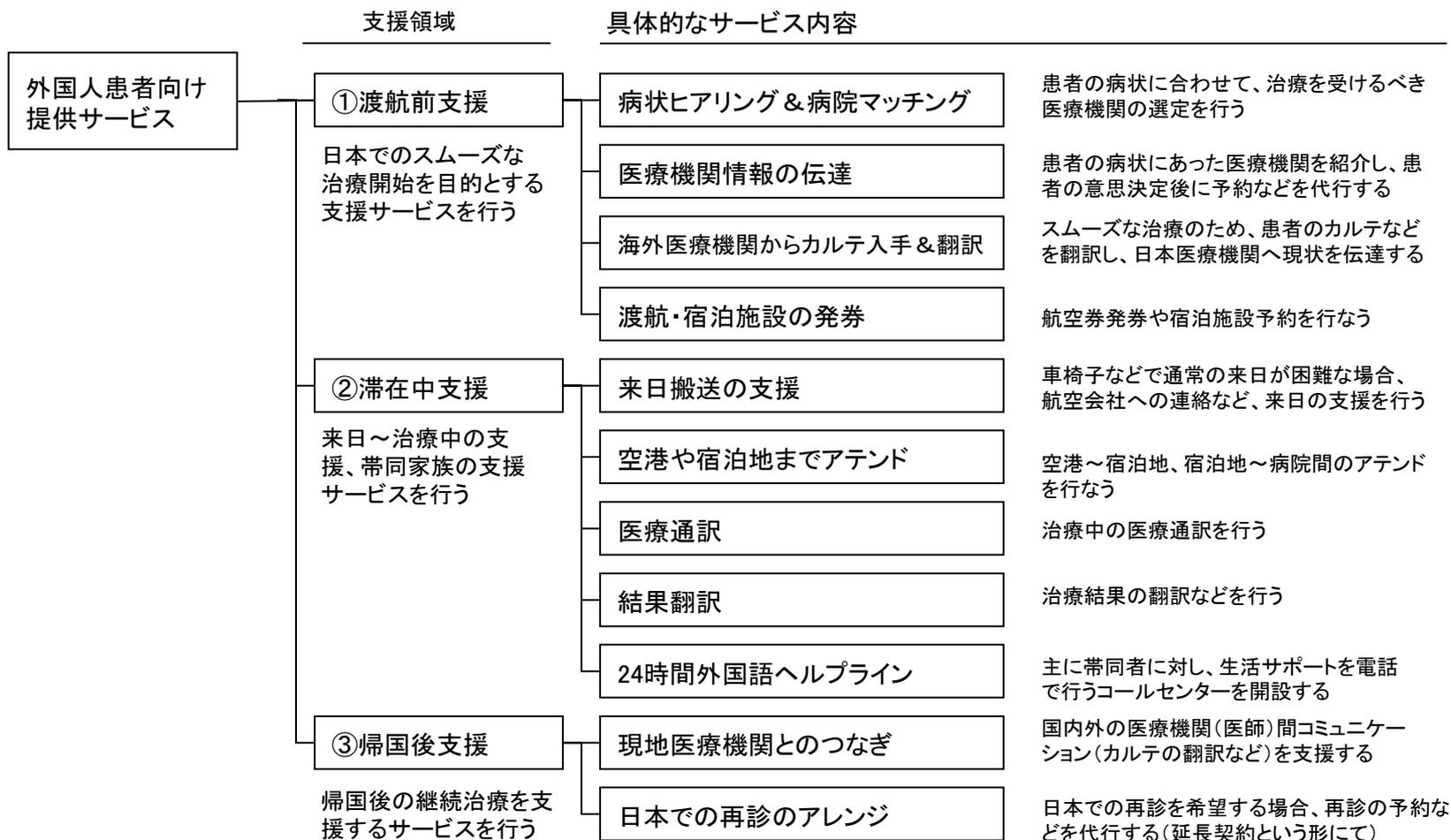
いずれのインバウンド事業でも当社の国内医療機関とのネットワークを活用し、複数言語(英語、中国語、ロシア語等)に通じ経験豊富な当社コーディネーターが日本基準のきめ細かいサービスを提供する。

インバウンドの種類	ケース	当社の対応	今後の予測
高度医療受診の紹介 (事前問合せ型)	高度先進医療の受診 ・がん重粒子線治療 ・内視鏡 ・循環器、再生医療 ・人間ドッグ 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関コンサルテーション</li> <li>・来日から帰国までのアレンジメント</li> <li>・医療滞在ビザの取得サービス</li> <li>・24時間365日のコールセンターサービス</li> <li>・通訳・翻訳、支払代行サービス</li> </ul>	認知度向上に伴い増加
訪日外国人への 緊急医療対応	訪日外国人が病気や怪我をした場合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な国内医療機関の紹介</li> <li>・通訳・翻訳、支払代行サービス</li> <li>・医療機関への支払方法相談(※)</li> </ul>	訪日外客数増に伴い増加

※医療機関への支払は患者の方が海外で事前に旅行保険に加入されている場合、訪日後に国内旅行保険に加入した場合、保険に入っていないため実費を負担していただく場合等によって異なります。

# インバウンドにおける当社提供サービス

当社は外国人患者に対して以下のようなサービスを提供しております。

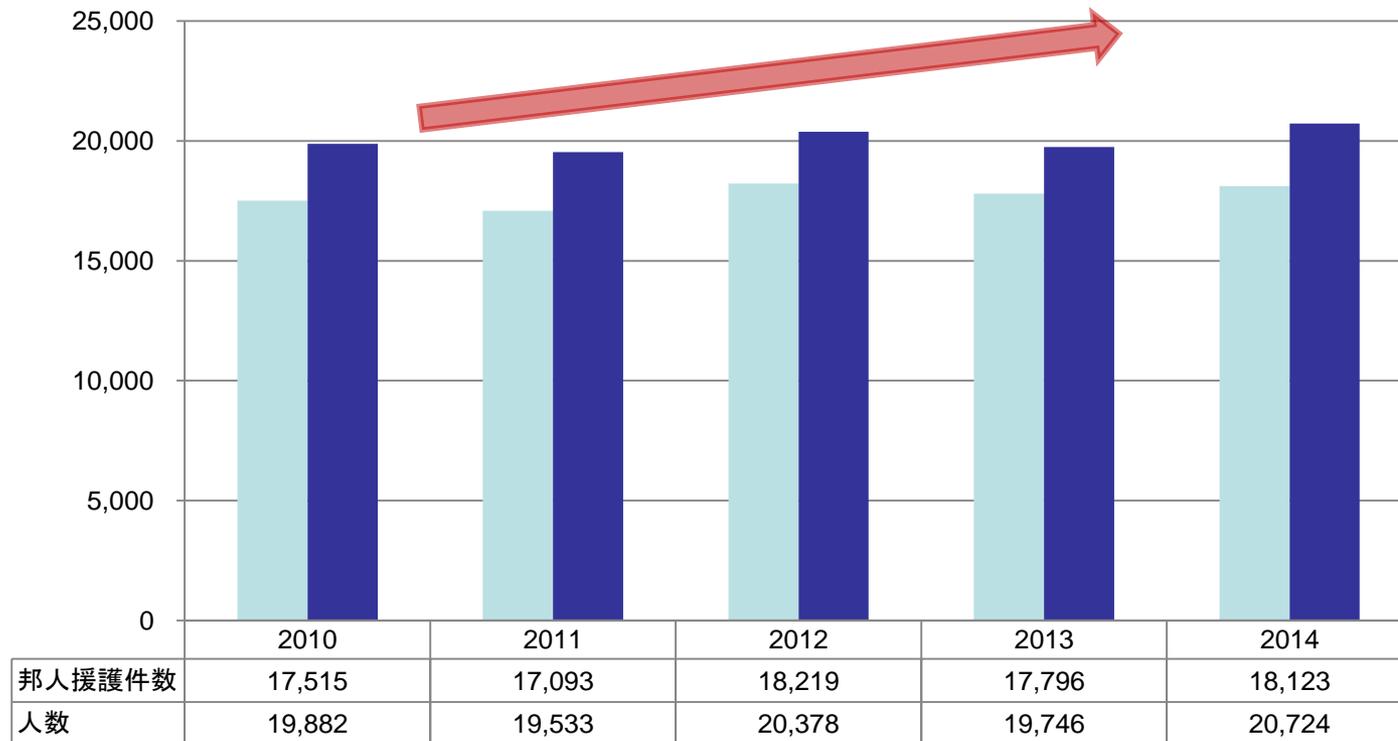


## VII. セキュリティリスクについて

## セキュリティリスクについて

- ・海外における邦人援護件数・人数ともに増加傾向にある。
- ・海外邦人援護発生地域(2014年)はアジア地域が33%、北米が31%、欧州が24%である。

邦人援護件数・人数の推移



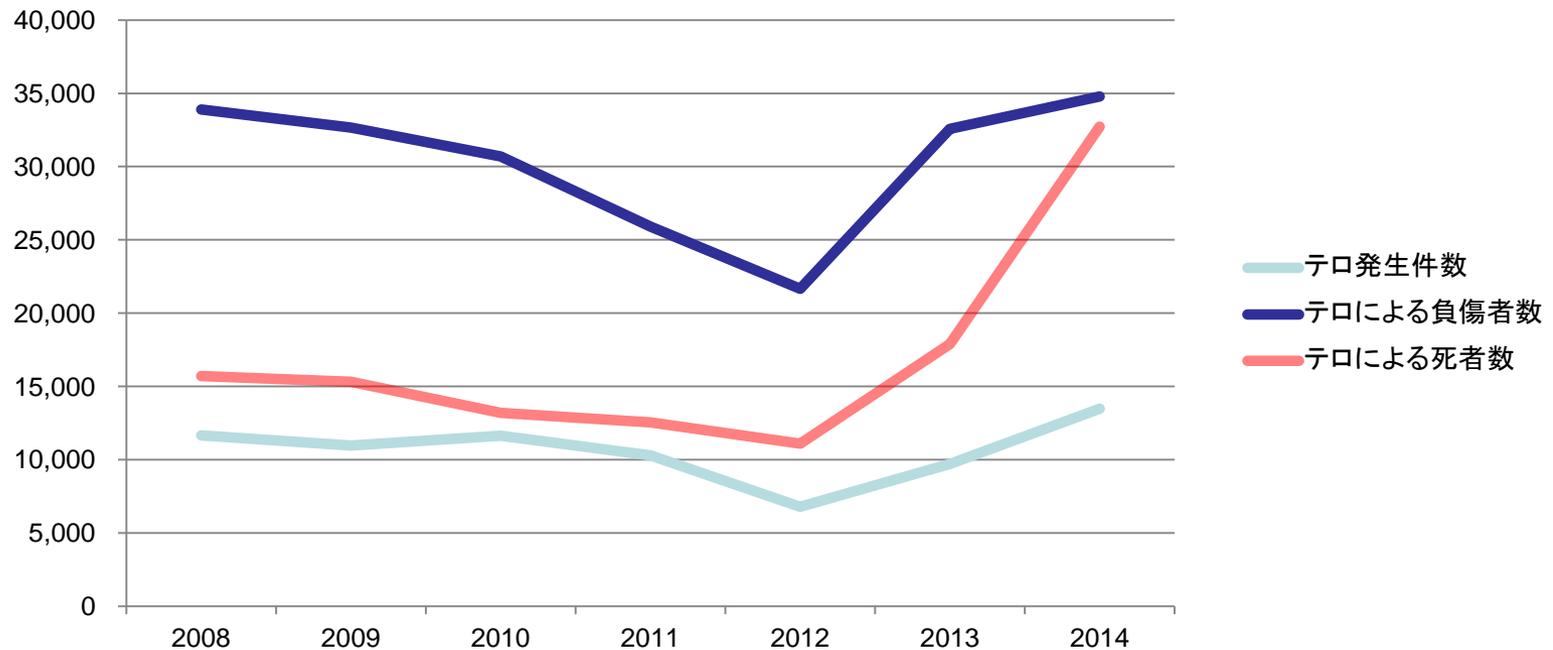
■ 邦人援護件数 ■ 人数

出展:外務省 領事局 海外邦人安全課『2014年 海外邦人援護統計』参照  
現段階では2014年が最新数値である。

## セキュリティリスク(テロ)について

- ・世界のテロリズムの発生件数は増加している。
- ・2015年1月にはイスラム国による日本人人質事件が発生、11月にはフランスのパリで同時多発テロが発生したことが記憶に新しい。

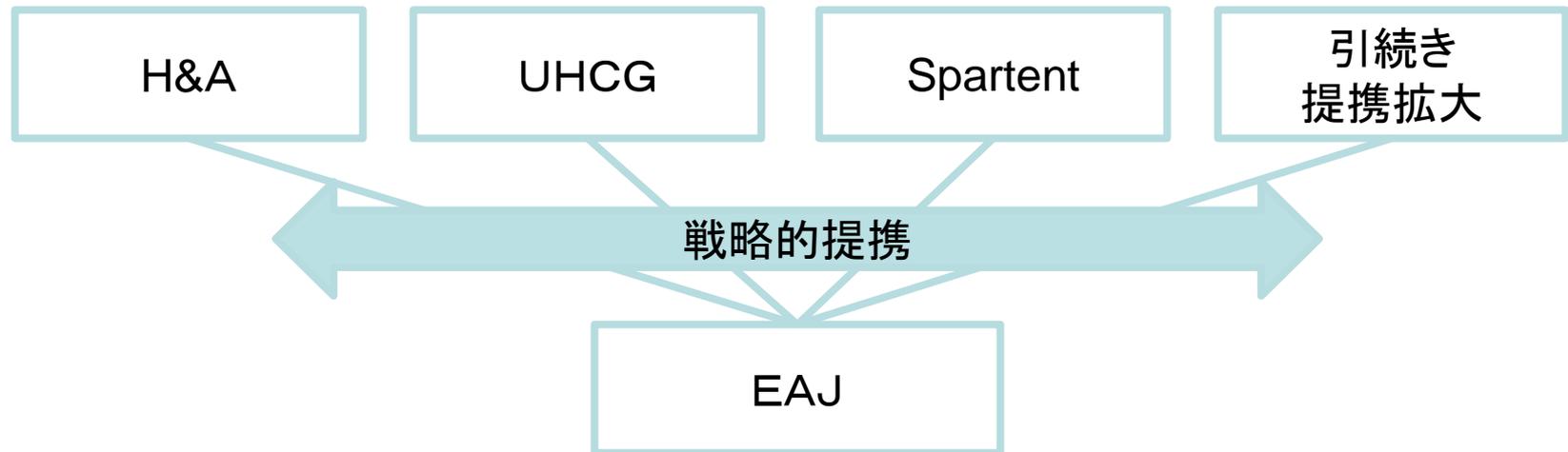
### 世界のテロ発生件数推移



出展: U.S.Department of State「Country Reports on Terrorism」参照

## EAJはセキュリティ・アシスタンスを強化・充実

EAJはセキュリティ分野の専門会社と提携し、全世界でセキュリティアシスタンスを提供。



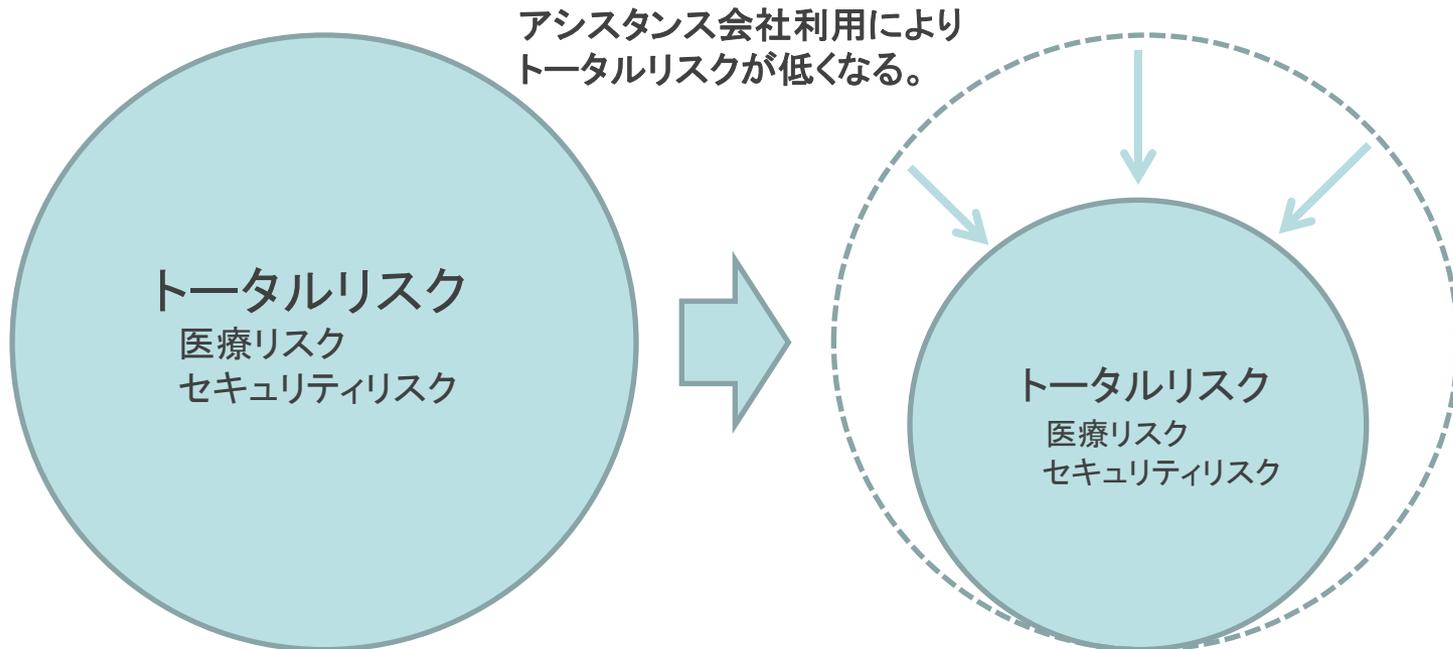
※H&A (Hill & Associates社)はアジアを主要事業地域とする国際的ビジネスリスク・インテリジェンス及びコンサルティング会社である。

※UHCG(ユナイテッド・ヘルスケア・グローバル社)はユナイテッド・ヘルス・グループ (NYSE: UNH) の関連会社であり、医療及びセキュリティ・アシスタンスをはじめとする保険ソリューションを世界125か国でクロスボーダー展開している。

※Spartent(スパーテント社)は、危機対応の実務経験を豊富に有する複数のプロフェッショナルによって設立された会社で、アフリカ、中東、南米といった、いわゆるハードシップ地域で事業展開する企業や投資家に対して、リスク低減を主体としたコンサルティングやアドバイザーを提供するのみならず、世界各地での危機発生時のクライシス・マネージメント・サービスを提供する会社である。

## アシスタンス会社利用で海外リスクを低減できる

- 企業や大学は海外のセキュリティ・医療リスクをアシスタンス会社を利用することで低減することができる。
- セキュリティ・医療リスクの低減は長期的に見れば企業・大学のコスト削減につながる。



※リスク低減効果はイメージであり、ある一定のパーセンテージを保証するものではありません。

## VIII. アシスタンス会社へのニーズ

# 医療アシスタンスのニーズ

## 緊急時の問題点

### 海外で病気や事故が発生したが、

- ・現地情報・医療機関に関する情報がない
- ・前払いで多額の料金を請求される
- ・言葉が通じない

### 独自で現地医療機関に緊急入院したが

- ・病院のレベルが低い
- ・言葉が通じないのでそのまま入院するのは不安だ

### 本当は日本で医療を受けたいが

- ・どうしたらいいのかわからない
- ・日本のどこの病院に連絡すればいいのかわからない
- ・そもそも動けないので自力で日本に帰れない

## 医療アシスタンスの必要性

## EAJコーディネーター・医師は

### 患者の容体を把握し、適切な指示を行う。

- ・病状に応じた適切な医療機関の案内
- ・キャッシュレスサービスを利用できる医療機関の案内、保険請求のための手続き
- ・現地医師とのコミュニケーション支援

### 現地の医療レベル評価、関係者の渡行支援

- ・現地治療状況のモニタリング
- ・海外医療に詳しい日本人顧問医や専門医による現地治療の評価及びセカンドオピニオンの提供
- ・医療通訳派遣、家族等関係者の渡航支援

### 搬送判断とアレンジメントを行う

- ・患者を現地の医療に委ねるか、医療レベルの高い近隣諸国あるいは日本に搬送するかを当社顧問医が判断
- ・コーディネーターは顧問医の判断に基づき搬送チーム(医師・看護師・コーディネーター)を編成し搬送を実施

# セキュリティアシスタンスのニーズ

## 緊急時の問題点

**海外赴任先における政情不安やテロ等のセキュリティ情報が入手できない**

- ・現地情報・近隣地域に関するセキュリティ情報がない
- ・現地の新聞、TV等のメディアでは客観的で正確なセキュリティ情報がつかめない

**実際に政情不安やテロ等のセキュリティリスクが発生したが適確に対応できない**

- ・正確なセキュリティ情報ソースがない
- ・政情不安、自然災害、暴動、テロ、監禁、当局への拘束等の課題についてどこに問合せでどう対応するべきなのかわからない

**セキュリティリスクが最高度に高まったので国外に避難したい**

セキュリティアシスタンスの必要性

## EAJのコーディネーター・プロフェッショナルは

**セキュリティ上の事件発生や、悪化が認知された場合の情報発信**

- ・注意喚起・警告・退避勧告の3種類の情報提供をメール送信する。
- ・対象となるリスクは政情不安だけでなく、自然災害やエボラ出血熱のような感染症も対象となる。

**セキュリティに関する情報を直接提供**

- ・EAJアラーム・センター内に設置する24時間365日稼働のセキュリティ共有回線にいつでもアクセスできる。
- ・状況に応じセキュリティ・プロフェッショナルによる電話でのアドバイスを受けられる。

**緊急避難のアレンジメントを行う**

- ・現地の治安状況が悪化した際、要請にもとづいて国外等への緊急避難を実施する。
- ・顧客の要請に基づき、セキュリティ・現地調査、緊急避難計画を策定する。

# 当社が企業・大学に提供するサービス

## 海外24時間医療アシスタンスサービス

- ◆ 海外における現地病院の手配
- ◆ 医療通訳アレンジ
- ◆ 入院費・治療費の支払保証・支払
- ◆ 日本人専門医による治療状況のモニタリング・セカンドオピニオン提供
- ◆ 医療者の派遣
- ◆ 緊急医療搬送(近隣医療先進国・日本への搬送)

## 海外医療コンサルティングサービス

- ◆ 進出拠点の保健衛生状況調査
- ◆ 医療機関調査
- ◆ 万が一の場合の緊急対応計画とその必要経費などの事前調査

## セキュリティサービス

- ◆ 24時間365日アクセスできるセキュリティ・ホット・ライン
- ◆ セキュリティ上の注意喚起及び警告のメール配信(全世界対象)
- ◆ セキュリティ・プロフェッショナルによるアドバイスの提供
- ◆ 現地セキュリティ・プロフェッショナルの動員によるアシスタンス・サービス  
現地の治安状況が悪化した際、最寄りの安全適地への緊急国外避難支援

### ■【今週のトピックス】■

□ ジカ熱 世界保健機関が公衆衛生緊急事態を宣言  
世界保健機関(WHO)は2月1日、中南米諸国で蚊を媒介としジカ熱の感染が拡大していることを受けて、国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態を宣言しました。

世界保健機関の緊急会議後の記者会見で、マーガレット・チャン事務局長は最優先すべき事項としてウイルス感染状況の監視、新しい診断技術の開発、適切な情報発信、感染源である蚊の駆除を掲げ、また長期的目標としてワクチンや治療法の開発に取り組むべきと強調しています。

ブラジルの感染地域で幼児の間に小頭症が多発している件に関しては、ジカ熱と先天異常の関連性は強く疑われるものの、現時点では科学的に証明されていないと述べています。但し科学的証明の有無を問わず、成人女性や妊娠中の女性に対するジカ熱の感染危険の啓蒙は欠かせないと補足しています  
世界保健機関によると、中南米でのジカ熱感染者が400万人に上る恐れがあると推定しています。

### セキュリティ関連情報例

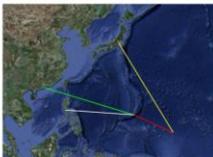
**緊急移送プラン 2**

【定期便で搬送不能 / グラムで治療できない場合】

【飛行時間と費用】 二名の医療者費用込み  
 グラムから手配の場合：  
 Pohpei ⇒ Tokyo / 6.5H / 70,000 - 78,000 USD  
 Pohpei ⇒ Guam ⇒ Manila / 6.5H / 64,000 - 71,000 USD  
 Pohpei ⇒ Guam ⇒ HK / 7.5H / 80,000 - 87,000 USD  
 香港から手配の場合：  
 Pohpei ⇒ Guam ⇒ Tokyo / 7.0H / 93,000 - 98,000 USD  
 その他ルート確認中

チャーターフライトはグラム又は香港のチャーターフライト会社に依頼し最も早く手配できる機材を調度。  
 ボンベイ ⇒ 東京 : 約3,700Km (黄色)  
 ボンベイ ⇒ グラム : 約1,640Km (赤色)  
 グラム ⇒ 香港 : 約3,380Km (緑色)  
 グラム ⇒ マニラ : 約2,560Km (白色)

【受入先病院候補】  
 日本： 東京営業所と相談し希望病院と交渉  
 マニラ： Makati Medical Centre 所在地： 2 Amorsolo cor. Dela Rosa St. Makati City, Metro Manila 連絡先 +63-2-888-8999  
 香港： Hong Kong Adventist Hospital (香港徳安医院) 所在地： 40 Shatin Road, Hong Kong 香港司徒拔道40号 連絡先 +852-2574-6211



### 緊急医療対応計画のシミュレーション例

## その他事業について

EAJは社内リソースを利用して以下のような事業も実施しています。

### ●国際医療事業のアウトバウンドサービス

海外に日本の医療を紹介する事業を実施し、日本の医療の国際展開をサポートします。

▶具体的には医療機関とのネットワークを生かして海外で日本の医療を紹介するセミナーを開催したり、海外で医療施設を建設する際のコンサルティング業務などを実施しております。

### ●救急救命アシスタンスサービス

国内外の要医療サービス地に健康危機管理、救助・救急及びエマージェンシー教育などのサービスを提供します。

### ●危機管理シミュレーション訓練プランニング(法人・大学向け)

実際のテロを想定して法人・大学の危機管理シミュレーション訓練のプランニングを行います。

▶例えば「ヨーロッパの某空港で航空機が爆発する事件が発生し、乗客に社員(学生)がいた場合」との想定の下で実践的シミュレーションを実施します。

▶有事の際の①情報の迅速な共有化と各部の役割、②メディア対応で気を付けるべき点、③当社との連携の流れを整理します。

# アシスタンスで お客様の世界を広げる

本説明資料に含まれる将来の見通しに関する部分は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。それらの不確実性には、業界ならびに市場の状況、金利、為替変動、国内外の事業に影響を与える政府の法規制といった国内及び国際的な経済状況などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

また、当資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定はご自身の判断において行われるようお願いいたします。

Copyright ©Emergency Assistance Japan Co., Ltd. All Rights Reserved.

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社